

実体経済の動向

◇生産、出荷は前3ヵ月著伸のあと減少

(生産——3ヵ月連続著伸のあと12月は若干減少)

鉱工業生産(季節調整済み)は、9月から11月にかけて月平均2%を上回る大幅な上昇を続けたあと、12月(速報)はさすがに-0.7%と減少を記録したが、試みに12月の速報値により10~12月を通じてみると、前期比+4.9%と7~9月(同+4.0%)をかなり上回る大幅な増加となった。財別には、耐久消費財が7~9月に引き続き+6.4%と著増したほか、7~9月に伸び悩んだ一般資本財、建設資材が、それぞれ+9.5%、+7.9%と大幅な増加を示したのが目だっている。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は、11月に土木建設鉱山機械、農業用機械、通信機械、電動機等を中心に、前月比+3.2%と増加、12月も農業用機械等の減少にもかかわらず、化学機械の反動増や銅電線ケーブル等の増加から、+0.7%と引き続き増加した。資本財輸送機械は11月に船舶を中心に+3.4%と増加したものの、12月は船舶の反動減に加え、トラックの生産調整もあって減少を示したものとみられる。建設資材は、金属製建具や、セメント、板ガラス等の窯業製品を中心に、11月+4.1%と増加したあと、12月も、金属製建具の減少にもかかわらず、窯業製品、塩ビ製品(硬質)等を中心に+3.0%と増加を続けた。耐久消費財は、11月には暖かいう房熱機器(石油ストーブ)や乗用車が減少したものの、家電製品(洗たく機、冷蔵庫等)、ラジオ、テレビ、音響機器等の増加から+6.0%と著増したが、12月は乗用車が引き続き減少したほか、家電製品の減少もあって-2.7%の減少を示した。非耐久消費財も、11月に食料品、たばこ、繊維二次製品等を中心に+1.5%と増加したあと、12月は若干減少(-0.7%)を示した。これまで着実な増加を続けてきた生産財は、11月も鉄鋼の7ヵ月ぶりの減

少にもかかわらず、非鉄、化学製品、繊維(化繊、製糸、紡績)等を中心に+1.1%と増加したが、12月には化学製品の減少を主因に横ばいとなった。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		42年	43年				43年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		10月	11月	12月
鉱工業	指数	145.4	148.1	156.1	162.4		167.9	172.2	—
	前期(月)比	5.2	1.9	5.4	4.0		2.1	2.6	0.7
	前年同期(月)比	19.1	17.2	18.4	17.5		18.1	18.6	17.2
投資財		6.9	3.0	5.6	4.4		4.3	3.5	0.1
資本財		9.1	0.8	6.5	6.0		5.3	3.4	1.1
同(輸送機械を除く)		8.3	4.7	9.6	1.4		7.3	3.2	0.7
輸送機械		8.9	5.0	1.0	15.0		1.1	3.4	—
建設資材		2.0	8.3	3.1	0.6		2.3	4.1	3.0
消費財		6.1	1.4	9.0	1.7		1.0	3.6	2.1
耐久消費財		8.9	4.4	10.8	5.1		0.3	6.0	2.7
非耐久消費財		4.5	3.1	5.4	0.1		2.0	1.5	0.7
生産財		3.3	3.8	2.4	5.3		1.9	1.1	0

(注) 1. 通産省調べ、43年12月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

(出荷——11月著伸のあと12月は減少)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、11月著伸(+3.9%)のあと、12月(速報)は-1.0%と減少し、ほぼ生産と同様の動きを示した。12月の速報値により10~12月を試算してみると、前期比+3.7%と、生産の伸び(同+4.9%)には若干及ばないものの、7~9月(同+2.1%)を大きく上回っており、財別には、生産同様一般資本財(同+9.7%)、建設資材(同+6.8%)の増加が目だっている。

財別にやや詳しくみると、一般資本財は10月著増(+11.4%)のあと、11月は前月著増をみたボイラー原動機、化学機械、運搬機械、繊維機械、電子応用装置等の反動減を中心に-0.3%と微減し、12月も普通鋼鋼管、銅電線ケーブルのほか電動機、変圧器、電話機等の減少を中心に-1.7%の減少を示した。資本財輸送機械は、11月に船舶の著増を主因に+33.0%と大幅に増加したあと、12月は船舶の反動減に加え、トラックの減少もあってかなりの減少をみた模様。建設資材は、金属製

建具、木材・木製品、窯業製品(セメント、板ガラス等)を中心に11月+4.6%と増加したあと、12月も、窯業製品の減少にもかかわらず、鉄骨、塩ビ製品(硬質)等の増加から+1.0%と続伸した。耐久消費財は、11月に、乗用車、暖ちゅう房熱機器(石油ストーブ)等が減少を示したものの、家電製品(洗たく機、冷蔵庫等)を中心に+6.7%と著増、12月も、乗用車が引き続き減少を示したにもかかわらず、家電製品(カラーテレビ、洗たく機等)の増加を主体に+5.9%と著増を続けた。非耐久消費財は、食料品を中心に11月+2.0%と増加したあと、12月は灯油、陶磁器等の減少から-0.5%と減少した。また、このところ根強い増勢を続けてきた生産財は、11月も+1.3%と増加したあと、12月には石油製品(ガソリン、軽油、重油)、鉄鋼、タイヤ・チューブ等の減少が響いて6か月ぶりに減少した。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		42 年		43 年		43 年		
		10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10月	11月	12月
鉱	指 数	140.8	146.6	154.1	157.3	159.5	165.8	—
工	前期(月)比	2.5	4.1	5.1	2.1	0	3.9	-1.0
業	前年同期(月)比	15.4	16.6	17.9	14.8	15.4	17.5	16.6
投 資 財		0.4	9.4	5.5	1.3	-1.0	8.1	-3.7
資 本 財		-0.2	9.3	6.5	1.9	-1.9	9.5	-5.1
同 (輸送機械を除く)		8.0	4.6	9.6	-0.4	11.4	-0.3	-1.7
輸 送 機 械		-13.1	19.2	0.6	6.0	-22.6	33.0	—
建 設 資 材		2.4	8.6	3.8	-0.8	2.1	4.6	1.0
消 費 財		3.3	0.9	7.8	-0.2	-0.6	3.6	2.2
耐久消費財		6.5	1.8	12.2	7.3	-5.4	6.7	5.9
非耐久消費財		2.1	-0.7	5.3	-2.6	2.4	2.0	-0.5
生 産 財		3.4	3.0	2.9	4.4	1.0	1.3	-0.8

(注) 1. 通産省調べ、43年12月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(在庫——製品在庫の増勢続く)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、11月+2.2%のあと、12月(速報)も+2.1%と増勢を続けた。12月の速報値により9月末と対比すると+8.7%と、四半期別の動きとしては37年1~3月(+13.5

%)以来の大幅な増加となった。財別には、7~9月に急増(前期末比+42.3%)をみた資本財輸送機械の伸びが、トラックの生産調整の効果もあって10~12月にはかなり鈍化したとみられるほかは、各財とも前期を相当上回る上昇を示しており、とくに、これまで伸びの鈍かった生産財の在庫がやや増加テンポを速めたのが目だっている。

財別にやや詳しくみると、一般資本財は、11月にトラクター、木工機械、風水力機械、標準電動機、標準変圧器等を中心に+2.5%と増加したあと、12月もトラクター、木工機械、ポンプ、標準モーター等の続伸に加え、銅電線ケーブル、電話機等の増加もあって、+6.2%と著増した。資本財輸送機械は、11月+1.6%のあと、12月は、トラックが生産調整の効果もあって著減を示したのを主因に、1割程度の減少を示した模様。建設資材は、金属製建具、窯業製品、木材・木製品を主体に、11月+3.1%の増加を示したあと12月も+7.3%と著増を続けた。耐久消費財は、11月に暖ちゅう房熱機器(石油ストーブ)が前月に続き大幅な増加を示したほか、家電製品(電気こたつ等)、乗用車が相当大幅に増加したこともあって

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

		42年	43 年				43 年		
		12月	3 月	6 月	9 月	10月	11月	12月	
工 業 指 数	指 数	124.2	132.4	135.9	143.2	149.2	152.5	—	
	前期(月)末比	7.2	6.6	2.6	5.4	4.2	2.2	2.1	
	前年同期(月)末比	18.0	21.9	22.1	23.6	25.2	24.9	26.5	
製 品 在 庫 率	指 数	87.6	90.3	88.3	89.8	93.6	92.0	94.9	
	投 資 財	2.7	7.8	- 2.3	11.9	6.1	2.6	3.4	
資 本 財	同 (輸送機械を除く)	7.2	12.2	- 6.0	13.8	7.7	1.9	1.5	
	輸 送 機 械	6.9	4.4	2.4	6.4	4.2	2.5	6.2	
建 設 資 材	輸 送 機 械	14.8	47.9	-33.7	42.3	22.5	1.6	—	
	建 設 資 材	- 2.8	4.5	2.1	9.6	4.4	3.1	7.3	
消 費 財	消 費 財	10.1	5.8	6.4	6.5	5.9	3.1	1.8	
	耐 久 消 費 財	9.2	14.5	10.5	8.4	9.3	6.1	- 0.8	
非 耐 久 消 費 財	非 耐 久 消 費 財	9.9	0.4	5.1	3.9	3.4	- 0.2	3.4	
	生 産 財	6.1	5.7	1.4	1.5	1.1	0.7	2.0	

(注) 1. 通産省調べ、43年12月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

+6.1%と著増したが、12月は、電気こたつ、石油ストーブ等冬物製品は引き続き増加したものの、乗用車、カラーテレビ等が減少したため、-0.8%と若干減少を示した。非耐久消費財は、11月に食料品を主体に-0.2%と微減したあと、12月はたばこ、灯油等の増加から+3.4%の増加を示した。この間生産財は、11月に非鉄、化学製品、一般機械部品等を中心に+0.7%と増加したあと、12月も、石油製品(ガソリン、軽油、重油)が大幅に増加したほか、冷延鋼板、タイヤ・チューブ、アルミ地金等の増加もあって+2.0%の増加を示した。

このような出荷、在庫の動きを映じて、12月の製品在庫率指数は94.9、前月比+3.2%とかなりの上昇を示した。例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いてみても、9月87.1、10月88.9、11月89.6、12月91.6とじりじりと水準を高めている。

11月の製造工業原材料在庫(季節調整済み)は、+2.5%と8月以降4か月連続の増加を示した。業種別にみると、鉄鋼、金属製品、機械(船舶を除く)等が前月に引き続き増加したほか、前月減少の非鉄、船舶、化学等も増加を示したが、反面

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			43 年		
	3月	6月	9月	9月	10月	11月
在庫指数	133.4	130.1	131.3	131.3	133.7	137.0
前期(月)末比	2.6-	2.5	0.9	1.2	1.8	2.5
国産分	3.4-	4.0-	2.0-	0.9	2.3	2.5
素原材料	10.1-	7.9-	1.7-	2.0	3.7	4.0
製品原材料	0.6-	2.5-	2.0-	0.4	1.2	2.3
輸入分	0.1	2.0	10.2	7.8	0.8	2.1
素原材料	-0.9	2.4	10.8	7.9	0.7	1.6
在庫率指数	90.1	86.4	83.5	83.5	83.8	85.9
国産分	89.4	84.0	78.6	78.6	79.3	81.6
素原材料	107.9	96.2	91.3	91.3	91.9	96.8
製品原材料	86.3	82.5	77.0	77.0	77.0	79.0
輸入分	90.6	95.8	103.2	103.2	101.9	101.1
素原材料	91.4	96.5	105.0	105.0	103.6	102.5

(注) 通産省調べ、43年11月は暫定。

8月来増勢の目だった石油は相当大幅な減少となった。また特殊分類別にみると、国産分、輸入分とも増加を示しており、なかでも輸入分素原材料が8月以降かなり水準を高めてきているのが目だっている。一方、11月の原材料消費(季節調整済み)は、-0.1%とわずかながら8か月ぶりの減少を示した。もっとも、これにはウエイトの大きい鉄鋼がかなりの減少となったことが大きく響いており、この影響を除くと、11月は+1.1%とむしろ若干増加したことになる。11月の原材料在庫率指数は、以上のような在庫、消費の動きを映じて85.9、前月比+2.6%と引き続き上昇した。

10月の販売業者在庫(季節調整済み)は、前月比+0.2%と4か月連続の増加を示した。もっとも、伸び率は徐々に小幅化する傾向を示している。品目別にみると、鋼材、自動車が続いて増加を示したほか、前月減少の石油も増加となったが、このところ増加の目だった民生用電機、非鉄金属、

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43 年			43 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月	11月
製造工業	3.0	1.3	4.0	0.9	1.5	0.1
国産分	2.9	1.7	4.1	1.2	1.4	0.4
素原材料	0.7	2.6	3.7	1.9	2.9	1.2
製品原材料	3.2	1.6	4.2	1.1	1.2	0.3
輸入分	4.0	2.6	2.8	1.2	2.1	2.9
素原材料	4.1	1.9	3.1	1.9	2.1	2.6
製品原材料	1.5	9.3	1.4	4.1	5.5	4.7

(注) 通産省調べ、43年11月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43 年			43 年		
	3月	6月	9月	8月	9月	10月
総合指数	130.7	126.0	142.4	140.9	142.4	142.6
前期(月)末比	4.4	-3.6	13.0	4.6	1.0	0.2
素原材料	4.0	0.9	30.2	9.7	10.9	-4.9
製品	4.4	-3.9	11.5	3.9	0.2	0.9

(注) 通産省調べ、前期(月)比増減率(%)。

生ゴムはかなりの減少を示しており、繊維も、糸の増加にもかかわらず、織物の減少を主因に全体では減少となった。

(設備投資——機械受注は落着き気配)

設備投資にはほぼ一致して動く一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、7～9月に前期比-0.4%と伸び悩んだあと、前述のように10～12月(12月は速報)は+9.7%と大幅に増加、43年中の伸び率も前年比+27.9%とほぼ42年並みの大幅な上昇を示した。

設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)の動きをみると、11月は製造業からの受注の減少(-8.4%)にもかかわらず、電力を中心とする非製造業からの受注が著増(+36.5%)したため9.1%の増加を示したが、12月は再び-14.6%とかなりの減少を示した。12月の動きを受注先業種別にみると、製造業では鉄鋼、紙・パルプ、機械等からの受注減が響いて-17.5%と3ヵ月連続の減少となり、非製造業でも、電力からの受注が前2ヵ月著増の反動からさすがにかなりの減少を示したため、-11.5%と著減した。この結果10～12月を通じてみると、非製造業からの受注は前期比+11.5%と増加したものの、製造業からの受注が-3.0%と減少したため、全体では+3.9%と7～9月(同+14.5%)に比べ、伸び率は大幅に鈍化した。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43 年			43 年		
	4～6月	7～9月	10～12月	10月	11月	12月
民 需	1,528 (21.1)	1,702 (11.4)	1,754 (3.0)	1,764 (3.3)	1,952 (10.7)	1,546 (-20.8)
同/海運を除く	1,360 (16.5)	1,557 (14.5)	1,618 (3.9)	1,606 (- 1.5)	1,751 (9.1)	1,496 (-14.6)
製 造 業	756 (11.4)	906 (19.8)	879 (- 3.0)	988 (- 9.5)	904 (- 8.4)	746 (-17.5)
非 製 造 業	765 (30.7)	824 (7.7)	881 (6.9)	788 (11.7)	1,059 (34.3)	796 (-24.8)
同/海運を除く	604 (23.5)	674 (11.6)	755 (11.5)	631 (2.8)	861 (36.5)	762 (-11.5)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

◇商品市況は大勢保合い

年明け後の商品市況をみると、昨年末小反発となった鋼板類が引き続きジリ高商状を示しているほか、非鉄が上昇を持続、灯油、セメント、基礎化学薬品、木材等も強含みの反面、12月来持直し傾向にあった繊維が1月末近くに小反落し、条鋼類、揮発油、砂糖等も弱含みないし小幅軟化を示すなど区々の動きとなったが、総じて値動きに乏しく、大勢保合いに推移している。

しかしながら、値上がりないし強含みを示した商品のなかには、メーカーによる店売り分出荷削減(鋼板類)、冬場の季節的減産(鉛、亜鉛)などメーカー側の特殊な要因が相場を下ささせているものも少なくない。この間、ユーザー側の態度を主力の鉄鋼、繊維についてみれば、先行き新規高炉の稼働や輸出の先細りによる供給余力の増大懸念(鉄鋼)、暖冬異変に悩まされた冬物の決済期を2月に控えた手張り過ぎ警戒気運(繊維)などから、総じて先行き警戒気運を改めるに至っていない。これらの事情を勘案すれば、商品市況の地合いはやや弱含みに推移しているとみてよからう。

品目別の動きをやや詳しくみると、鉄鋼では、鋼板類が強含みの反面、条鋼類は値下がりした。鋼板類については、メーカーの店売り分出荷削減に伴い商社、特約店の売り渋り傾向が目だってきた。しかしユーザー側では、輸出の先細り(対米輸出自主規制枠44年520万トン、43年比170万トン減)、先行き新規高炉稼働などを見越した先安感が払拭されるには至っていない。条鋼類については、単庄メーカーの増産傾向が改まらず、軟弱地合いを持続した。繊維では、綿糸が1月半ばまで反騰を続け一時8万円/コリの大台乗せもみられたが、その後は下落に転じ、生糸、そ毛糸もおおむね保合いに推移するなど、月中を通じてみると値動きに乏しい商状となった。綿糸は、一時紡機の一括廃棄が刺激材料となったものであるが、機屋、ニッターの在庫手当て態度には積極さが見られず地合いは弱い。織物産地では、冬物製品の決済月を控えて総じて手張り過ぎ警戒気運が濃く、

生糸、そ毛糸等でみられる市況対策も大きな効果をあげるに至っていない。非鉄では、海外高を主因に銅が続伸し、鉛、亜鉛も強保合いに推移した。荷動きはやや一服さみながら、冬場の季節的減産(鉛、亜鉛)もあって需給地合いの引き締まり傾向に変わりはない。石油では、寒気到来で灯油の出荷はやや回復しているが、依然荷余り感が強い。揮発油も供給圧力が強く再び値下がりした。セメントの出荷は12月急増のあと一服さみながら、メーカー側の売腰は強く、強含み気配を持続した。木材は、国内材の品薄のほか、外材も入着漸減のためいずれも強含みとなった。化学製品では、硫酸の需給引き締まりが目だち値上げの動きが散見されるほか、カーバイド、アンモニア等も強保合いとなるなど、基礎薬品類は総じて堅調に推移した。他方、合成樹脂については、生産能力の増加見越しから全般に軟調を続けた。紙のうち、洋紙は、需要期明けから弱含みとなったが、段ボール原紙は、ユーザー(くだもの、弱電関係)

からの引合いおう盛で強含みとなった。砂糖は、荷動き凡調であるため中小メーカーの売り急ぎがあつて値下がりした。

(卸売物価——12月保合いのあと1月上中旬は微騰)

12月の卸売物価は、総平均で前月比保合いとなった。品目別では、これまで堅調を続けてきた食料品(豚肉、鶏肉)が反落したほか、鉄鋼(鋼材)、石油・石炭(C重油)、木材・同製品(原木)、繊維(原綿毛、絹織物)等が下落したが、銅系非鉄が急騰、窯業製品(石綿スレート)も上昇した。1月にはいつてからは、上中旬とも、前旬比+0.1%の上昇。これは、非鉄、木材・同製品の上昇によるもの。

なお、43年平均では、前年比+0.8%と、41、42年の上昇率(各+2.4%、+1.9%)を下回った。内訳では、食料品、木材・同製品(原木)等を中心に非工業製品はかなりの上昇(前年比+3.4%)となったが、工業製品は中小企業性製品的大幅上昇にもかかわらず、大企業性製品が生産財を中心に

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	下 降 期 (ピーク43/2) 43/2 →43/7	上 昇 期 (ボトム43/7) 43/7 →43/12	最 近 の 推 移							
				43 年			43 年 12 月			44 年 1 月	
				10 月	11 月	12 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
総 平 均	100.0	- 0.9	+ 1.0	+ 0.2	+ 0.2	保 合	保 合	- 0.1	保 合	+ 0.1	+0.1
食 料 品	15.7	+ 1.8	+ 2.7	+ 1.2	+ 1.0	- 0.2	- 0.3	- 0.5	+ 0.1	- 0.4	-0.1
繊 維 品	10.7	- 1.7	- 1.5	- 0.5	保 合	- 0.4	- 0.2	- 0.1	保 合	保 合	保 合
鉄 鋼	9.7	- 1.7	+ 0.9	+ 0.5	+ 0.1	- 0.7	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.3	保 合
非 鉄 金 属	4.4	- 9.5	+ 4.7	+ 0.2	- 1.0	+ 3.0	+ 1.5	+ 0.9	+ 0.4	+ 0.2	+0.2
金 属 製 品	3.8	- 0.6	+ 1.6	+ 0.8	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合
機 械 器 具	22.1	+ 0.3	- 0.5	- 0.2	- 0.2	保 合	保 合	保 合	保 合	+ 0.1	保 合
石 油・石 炭	5.6	- 4.1	同水準	+ 0.3	+ 0.3	- 0.1	- 0.1	保 合	- 0.3	保 合	+0.1
木 材・同 製 品	6.2	- 1.2	+ 3.2	+ 0.5	- 0.2	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 1.0	+0.8
窯 業 製 品	3.0	+ 0.8	+ 0.9	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合
化 学 品	7.6	- 1.6	- 0.4	- 0.2	保 合	- 0.2	- 0.2	保 合	保 合	- 0.1	保 合
紙・パ ル プ	3.4	- 0.6	+ 0.5	+ 0.3	保 合	保 合	- 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合
雑 品 目	7.9	同水準	+ 1.2	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.1	保 合	- 0.1	+ 0.3	保 合
工 業 製 品	82.0	- 0.5	+ 0.6	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.5	+ 0.1	保 合	- 0.2	+ 0.1					
中小 企 業 性	21.0	- 0.1	+ 1.5	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.1					
非 工 業 製 品	18.0	- 2.4	+ 2.2	+ 1.1	+ 0.6	- 0.5	- 0.3	- 0.5	- 0.1	+ 0.1	+0.1

(注) 本行調べ。

下落したため、全体で0.3%と微騰にとどまった。

(消費者物価——12月反落したが1月には再び上昇)

12月の消費者物価(東京)は、総合で前月比-0.6%と反落した。これには、季節商品(冬野菜、くだもの、生鮮魚介)を中心に食料の下落が響いており、季節商品を除く総合では、前月比0.4%上昇した。品目別では、水道料の値上げを中心に住居費が上昇したほか、年末を控えて理髪代、パーマ代等の値上げにより雑費も上昇。

1月には、前月反落した季節商品が再び上昇したため、総合で前月比0.6%上昇した。季節商品を除くと、暖冬による冬物衣料等の値下がり響いて被服が反落、雑費も値下がりしたため、全体で前月比-0.1%と久方ぶりに下落した。

(輸出入物価——輸出物価は微騰、輸入物価は続騰)

12月の輸出物価は、前月比0.1%の上昇となった。品目別にみると食料品(さばかん詰)、化学製品(カセイソーダ)は下落したが、繊維品(綿・スフ織物)、金属・同製品(鉄鋼、銅系非鉄)、雑品目(食器、合板)が上昇、一方、輸入物価は、前月急騰(+0.7%)したあと、当月も+0.3%と続騰した。これは繊維(原綿毛)、鉱物性燃料(原油、ナフサ)、化学品(ビタミン剤)は微落したものの、食料品(粗糖)、金属(銅)が引き続きかなり上昇したことによる。

この結果、交易条件指数は、99.9と前月比0.2ポイントさらに低下した。

43年全体としては、輸出物価が、繊維品(綿織物)、機械器具(ミシン、船舶)、非金属鉱物製品(陶磁器、タイル)を中心に年間平均で0.5%上昇(前年同+0.4%)した。一方、輸入物価も、食料品(小麦、飼料)が下落したものの、繊維品(原毛)、金属(鉄鉱石、銑鉄)、化学製品等がそろって値上がりしたため、0.5%上昇(前年-1.1%)した。このため年間平均の交易条件は、前年と同水準となった。

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

			ウ エ イト	前 年 比 率		最近の推移			最 近 の 前 月 同 比
				42年	43年	43 年		44年	
				平 均	平 均	11月	12月	1 月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+4.1	+5.6	+0.3	-0.6	+0.6	+ 3.8
		(季節商品を除く)	91.4	+3.5	+5.7	+0.9	+0.4	-0.1	+ 5.2
		食 料	40.9	+5.0	+7.5	-0.3	-2.0	+1.6	+ 2.7
		住 居	10.7	+4.3	+2.4	+0.6	+0.3	-0.5	+ 2.2
		光 熱	4.5	-0.2	+0.6	+0.2	保 合	保 合	- 0.3
		被 服	13.0	+2.8	+4.8	+0.9	+0.2	-0.2	+ 6.4
	雑 費	31.0	+4.0	+5.1	+0.8	+0.6	-0.2	+ 5.0	
	全 国	総 合	100.0	+4.0	+5.3	+0.3	-0.4		+ 3.9
		(季節商品を除く)	91.4	+3.4	+5.5	+0.8	+0.5		+ 5.2
		総 合	100.0	+3.9	+5.3	+0.3	-0.5		+ 3.9
(季節商品を除く)		91.3	+3.3	+5.4	+0.9	+0.4		+ 5.2	
輸 入 物 価	輸 出		+0.4	+0.5	保 合	+0.1		+ 0.5	
	輸 入		-1.1	+0.5	+0.7	+0.3		- 1.3	
	交易条件		+1.5	同水準	-0.7	-0.2		+ 1.8	

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

◇国際収支の黒字続く

12月の国際収支は、総合で161百万ドルの受超と前月(同207百万ドル)に比べ黒字幅を縮小した。貿易収支を季節調整した基礎的収支は9ヵ月ぶりに43百万ドルの赤字となったが、これは、主として長期資本収支が後記のようなやや特殊な事情から大幅の赤字となったことによるもので、基調としては引き続き順調に推移しているものとみられる。貿易収支は季節性を映じて記録的な黒字(452百万ドル)となったが、季節調整後の黒字(212百万ドル)は前月(291百万ドル)に比しかなり減少した。しかし、これも大部分が米国における港湾ストライキの影響による不規則な動きとみられ、ならしてみれば、貿易収支は相変わらず順調な足どりを続けているといえる。移転収支は、中東における石油採掘関係所得税の支払があったことなどからかなりの逆調(25百万ドル)となった。また、長期資本収支も108百万ドルの流出超と、久方ぶりに大幅な赤字を示した。これは、対外投資が、在外本邦商社(現地法人)の増資払込金の送金やア

シア開発銀行に対する出資が行なわれたことから、異例の高額に上った(対外純投資額179百万ドル、前月は113百万ドル)ため、インパクト・ローン、外国投資家の本邦株式の取得など外国資本

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	43 年			43 年			前 年 同 月
	4~6 月	7~9 月	10~ 12月	10月	11月	12月	
経 常 収 支	191	504	649	176	168	305	69
貿易収支	546	845	1,022	283	287	452	209
輸 出	3,112	3,327	3,746	1,164	1,174	1,408	1,074
輸 入	2,566	2,482	2,724	881	887	956	865
貿易外収支	△ 310	△ 317	△ 325	△ 95	△ 108	△ 122	△ 113
移 転 収 支	△ 45	△ 24	△ 48	△ 12	△ 11	△ 25	△ 27
長期資本収支	△ 19	7	123	30	45	108	△ 26
基礎的収支	172 (327)	511 (281)	526 (242)	206 (158)	123 (127)	197 (△ 43)	43 (△ 147)
短期資本収支	△ 20	31	76	5	57	14	47
誤 差 脱 漏	69	△ 2	14	8	27	△ 50	△ 15
総 合 収 支	221	540	588	219	207	161	75
金 融 勘 定	221	540	588	219	207	161	75
外貨準備	13	384	531	194	224	113	42
増減							
そ の 他	208	156	57	25	△ 17	48	33
外貨準備高	1,976	2,360	2,891	2,554	2,778	2,891	2,005
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	1,022	△ 857	△ 789	△ 831	△ 839	△ 789	△ 1,028

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支には金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通 関		輸出 信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
43年								
1~3月	945	808	137	960	1,025	783	1,009	903
4~6月	1,048	814	234	1,068	1,027	846	1,122	945
7~9月	1,073	868	205	1,107	1,108	881	1,162	997
10~12月	1,155	909	246	1,166	1,165	956	1,234	1,047
43年 8月	1,092	832	260	1,101	1,067	871	1,160	996
9月	1,124	882	242	1,173	1,128	893	1,178	1,001
10月	1,108	873	235	1,132	1,123	938	1,226	1,012
11月	1,211	920	291	1,212	1,174	956	1,214	1,054
12月	1,146	909	212	1,154	1,197	974	1,263	1,075

- (注) 1. 季節調整はセンサス局法による。
2. 四半期計数は月平均額。
3. 輸出信用状、輸出認証、輸入承認については季節指数を改訂。

の流入はこれまでどおり高水準を続けた。

一方、金融勘定では、買持輸出手形の季節的増加を主因に為替銀行の対外ポジションが若干好転したうえ、外貨準備も113百万ドル増加し、両者を合わせた対外短期資産超過額は2,102百万ドルに達した(前年同月は977百万ドル)。

12月の輸出は前年同月に比し+31.1%と前月の増加率(41.3%)を下回り、季節調整後でも、前月比-5.4%の減少となった。しかし、これは10月から11月にかけて、米国の港湾ストライキを見越して、一部米国向け貨物の船積み繰上げが行なわれたことの反動によるところが大きく、輸出の増勢に格別の変化が生じたとはみられない。商品別の動き(通関ベース)をみると、食料品が前年水準を下回り、化学繊維、真珠等が小幅の増加にとどまったほかは、機械、化学品、金属、合成繊維等がいずれも好調を持続した。また、仕向先別にみても、米国向けが前記のような事情から、伸び率は多少低下したものの、なお相当の高水準(前年同月比+27.3%)を示し、東南アジア、アフリカなどその他の地域向けもほぼ全面的に好伸した。

先行指標である輸出信用状接受額は、季節調整後で12月に1.9%増加したあと、1月も同+6.7%とさらに大幅な伸びを示した。また、大手商社の輸出成約も月によってかなりのフレはあるものの、ならしてみれば前年同期を2割以上上回る好調を続けている。

一方輸入は、前年同月比で+10.5%、季節調整後の前月比でも+1.5%と漸増傾向を持続した。商品別動向(通関ベース)をみると、食料がこれまでと同様落ち着いた動きを続けており、木材、化学品、機械等も当月は小幅の増加にとどまったが、鉄鋼原材料、消費財等は引き続き根強い増加を示した。

輸入素原材料在庫の推移をみると、昨年夏ごろ以降かなり増加してきており、秋口までは在庫率も上昇した。10~11月には輸入素原材料消費の増勢がやや強まったため、在庫率は再び低下ぎみとなっているが、その水準はなおいくぶん高めのよ

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43 年			43 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
食 料 品	89 (+ 16)	111 (+ 7)	128 (+ 19)	48 (+ 40)	42 (+ 22)	37 (- 3)
魚 介 類	52 (+ 9)	73 (+ 4)	85 (+ 22)	34 (+ 51)	25 (+ 29)	25 (- 7)
繊維製品	485 (+ 12)	513 (+ 21)	613 (+ 27)	184 (+ 24)	181 (+ 30)	248 (+ 27)
綿 織 物	59 (- 8)	59 (+ 1)	73 (+ 6)	22 (- 2)	20 (+ 1)	31 (+ 15)
合繊維物	91 (+ 21)	103 (+ 44)	131 (+ 30)	39 (+ 27)	38 (+ 29)	53 (+ 34)
化学製品	207 (+ 15)	220 (+ 23)	231 (+ 33)	75 (+ 28)	74 (+ 42)	81 (+ 32)
非金属 鉱物製品	82 (+ 9)	82 (+ 11)	95 (+ 22)	31 (+ 27)	29 (+ 23)	35 (+ 17)
金属製品	586 (+ 37)	615 (+ 34)	663 (+ 33)	220 (+ 45)	211 (+ 35)	232 (+ 22)
鉄 鋼	427 (+ 40)	455 (+ 38)	480 (+ 37)	162 (+ 52)	156 (+ 39)	162 (+ 22)
機械機器	1,361 (+ 30)	1,462 (+ 27)	1,673 (+ 36)	493 (+ 16)	537 (+ 53)	643 (+ 42)
(船舶を 除く)	1,107 (+ 32)	1,184 (+ 35)	1,402 (+ 46)	425 (+ 40)	439 (+ 55)	538 (+ 44)
テ レ ビ	57 (+ 77)	84 (+ 76)	86 (+ 87)	35 (+ 81)	24 (+ 70)	27 (+ 113)
ラ ジ オ	98 (+ 24)	120 (+ 29)	131 (+ 35)	42 (+ 21)	43 (+ 43)	46 (+ 43)
自 動 車	179 (+ 52)	185 (+ 98)	213 (+ 65)	63 (+ 72)	65 (+ 70)	85 (+ 56)
船 舶	254 (+ 22)	278 (+ 2)	271 (+ 2)	68 (- 44)	98 (+ 49)	105 (+ 35)
光学機器	91 (+ 16)	98 (+ 20)	109 (+ 28)	35 (+ 25)	34 (+ 29)	40 (+ 31)
そ の 他	360 (+ 16)	387 (+ 14)	406 (+ 26)	130 (+ 26)	123 (+ 34)	153 (+ 21)
合 計	3,171 (+ 25)	3,389 (+ 24)	3,807 (+ 32)	1,181 (+ 25)	1,197 (+ 41)	1,429 (+ 31)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

うにうかがわれる。すなわち、原綿在庫がかなり多めとみられるほか、鉄鋼原材料も新設高炉の稼働に備えて在庫積み増しがなされた模様である。

12月の輸入承認額は、前年同月比では+35.6%と著増した。これは、前年同月の水準がおもわくによる承認取り急ぎの反動で異常に低かったためであるが、季節調整後でも前月比+2.0%と続伸し

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43 年			43 年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
食 料 品	485 (0)	445 (+ 8)	487 (+ 7)	163 (+ 9)	157 (+ 7)	167 (+ 6)
小 麦	68 (- 26)	74 (- 7)	73 (1)	22 (- 24)	24 (+ 11)	27 (+ 25)
とうも ろこし	67 (+ 23)	54 (+ 8)	63 (+ 9)	20 (- 6)	22 (+ 37)	21 (+ 3)
砂 糖	44 (+ 40)	26 (- 1)	32 (+ 12)	12 (+ 18)	8 (- 6)	12 (+ 22)
原 燃 料	1,921 (+ 13)	1,864 (+ 13)	1,964 (+ 9)	651 (+ 11)	643 (+ 8)	671 (+ 10)
羊 毛	96 (- 4)	92 (+ 2)	93 (+ 19)	28 (+ 22)	27 (+ 5)	38 (+ 30)
綿 花	154 (+ 12)	114 (+ 25)	116 (+ 32)	42 (+ 50)	41 (+ 48)	33 (+ 3)
鉄 鉱 石	218 (+ 15)	210 (+ 16)	219 (+ 22)	72 (+ 19)	74 (+ 38)	73 (+ 11)
鉄鋼くず	34 (- 61)	32 (- 67)	54 (- 25)	20 (- 26)	13 (- 56)	21 (+ 29)
大 豆	68 (+ 11)	66 (+ 9)	70 (- 3)	24 (- 2)	22 (+ 16)	24 (- 15)
木 材	315 (+ 37)	300 (+ 19)	297 (+ 16)	103 (+ 21)	98 (+ 1)	96 (+ 7)
石 炭	126 (+ 23)	135 (+ 38)	135 (+ 25)	44 (+ 26)	44 (+ 28)	46 (+ 20)
原 油	410 (+ 19)	404 (+ 22)	454 (+ 3)	151 (+ 12)	146 (- 6)	157 (+ 6)
化学製品	157 (+ 4)	174 (+ 13)	192 (+ 16)	68 (+ 24)	65 (+ 21)	60 (+ 5)
機械機器	339 (+ 22)	307 (+ 25)	350 (+ 23)	109 (+ 35)	120 (+ 28)	121 (+ 9)
鉄 鋼	51 (- 48)	56 (- 39)	75 (- 30)	19 (- 55)	29 (- 3)	26 (- 23)
非鉄金属	152 (+ 3)	145 (0)	190 (+ 13)	55 (+ 2)	64 (+ 10)	70 (+ 25)
そ の 他	149 (+ 25)	178 (+ 30)	187 (+ 30)	61 (+ 39)	58 (+ 20)	68 (+ 32)
合 計	3,255 (+ 9)	3,170 (+ 12)	3,445 (+ 10)	1,127 (+ 11)	1,136 (+ 11)	1,183 (+ 9)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ており、輸入は先行きも引き続き漸増傾向をたどるものと見込まれる。ただ、原材料在庫が上記のとおり多少余裕含みとなっていることからみて、輸入の増勢が急激なものとなる懸念は当面少ないように思われる。